

「活力ある学校・家庭・地域をめざした取組へ」

～ふるさと協育ネット「ほっちゃや」の取組～

【下関市 長府中学校区】

地域の概要

長府中学校区は、串崎城跡や幕末に高杉晋作が奇兵隊を挙兵した功山寺、忌宮神社などがあり、城下町としての面影を残しています。また、海岸沿いには工場群が立ち並び、近代的な要素もあります。

校区は広く、定期バスを利用して通学する児童もいます。

人口	16,317 人	
世帯数	7,406 世帯	
対象校及び児童・生徒数	長府中学校	456 人
	豊浦小学校	952 人

組織の内容

地域の教育力の低下や学校現場における教員の業務量の増加による、きめ細やかな指導時間の確保の困難さなどにより、児童生徒の健全育成が懸念されているところです。こうした状況の中、長府中学校区では地域住民が小中学校を支援するため、平成 20 年度から、長府地区学校支援地域本部『ほっちゃや』を活動拠点として設置しました。

推進母体となる地域協議会は、学校関係者をはじめ、自治会、婦人会、青少年補導委員、敬老会、児童委員、体育協会、交通安全協会、長府観光協会、市役所支所、PTAを構成メンバーとし、支援活動の計画を立案していきました。

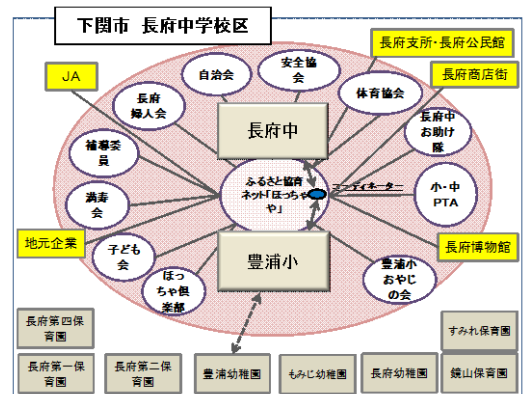
『ほっちゃや』では、学校とPTAをはじめ婦人会や敬老会など地域との連携体制の構築を図り、多様な形態の支援はこの3年間で360件を超え、支援ボランティア『ほっちゃやず』は、のべ2,000人にのぼりました。また、下図のように毎年テーマを掲げて年次的な発展をめざして進めてきました。

第1年次は、説明会の実施や事業案内及び活動通信を発行することにより、教職員や保護者・地域の方々への学校支援活動に対する理解を深めるよう努めました。

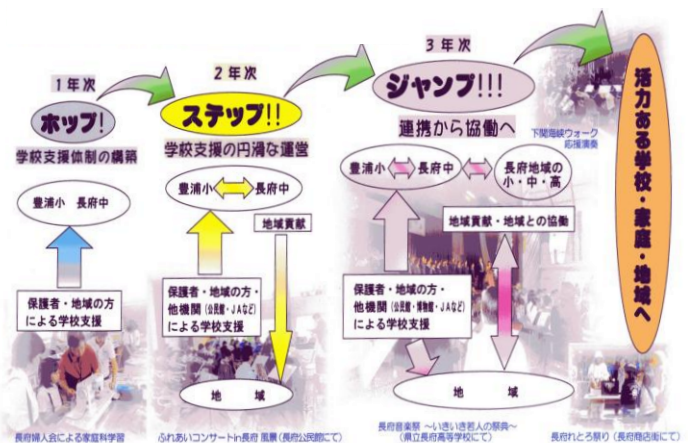
第2年次には回覧板や公民館だよりを利用した地域への広報活動を強化してきました。それにより、有志による新規ボランティア団体「長府中おたすけ隊」「ほっちゃや倶楽部」が立ち上がりました。また、小学校と中学校の連携を強化するために、双方向での教員の支援活動への参加やPTA間での支援協力を行いました。

さらに第3年次は「連携から協働へ」のスローガンを設定し地域の「ほっちゃや倶楽部」を中心に、校区内の高校にも呼び掛けて合同の音楽祭を開催するなど、連携の輪を広げながら地域と学校が一体となった取組を実施しました。

そして今年度からは事業名が「ふるさと下関協育ネット事業」に変更されたことに伴い、「長府地区ふるさと協育ネット『ほっちゃや』」として、活力ある学校・家庭・地域をめざし、これまでの取組をさらに充実させているところです。



ネット協議会の構成	学校関係者	7 名
	地域団体関係者	8 名
	PTA関係者	2 名
	自治体関係者	1 名
コーディネーター数	1 名	
登録ボランティア数	315 名	



主な活動の紹介

○学校支援の様子

①学習支援…ゲストティーチャーによる講話、指導補助、校外学習支援 等

- ・ 1年生；むかしの遊び体験（生活科；敬老会）
- ・ 2年生；長府の町たんけん（生活科；観光ボランティアによるガイド）
- ・ 3年生；ふるさと学習（総合；町おこしの実践家、自然観察員）
- ・ 4年生；大豆のふしぎ（総合；保護者、婦人会）
- ・ 5年生；ミシン指導補助（家庭科；婦人会）
- ・ 6年生；福祉学習（総合；地域にお住まいのボランティア）
- ・ 中学1年生；キャリア教育（総合；職業講話）
- ・ 中学2年生；キャリア教育（総合；全て地元の事業所で）



むかしの遊び体験の様子

②環境整備…夏休みの校内整備作業、学期ごとの親子清掃



③安全支援…新入児の下校指導、バス通学マナー指導、下校時の見守り 等



P
T
A
だけ
では
足り
ない
ので
委員
部分
を補
導員
・民
生
委員
・婦
人会
など
でカ
バ
ーし
ても
らう



学
校
で
は
指
導
の
難
し
い
バ
ス
通
学
マ
ナー
指
導
を
婦
人
会
が
担
当



中
学
校
で
も
、
下
校
時
の
安
心
安
全
の
た
め
、
地
域
住
民
が
連
携
し
て
見
守
り
活
動

④その他…ダンスクラブ指導、吹奏楽部指導、読み聞かせ、バザー手伝い等



小学校のダンスクラブに地域のダンスインストラクターが指導に来たり、中学校の吹奏楽部に社会人サークルから指導に来たりと支援の輪はどんどん広がっています。

○他機関との連携

地域住民だけでなく、地元の様々な機関との連携もできました。4年生の総合的な学習では、JAが土地や苗の提供から世話まで全面的に協力してくださいました。収穫したさつまいもは、豊浦祭で児童が販売し、その収益は学校の図書購入に充てられました。

さらに、高齢者施設を訪問した際にもさつまいもをプレゼントし、大変喜ばれました。お世話になったJAの職員には、感謝の気持ちを俳句にして暖簾に飾りプレゼントしました。一つの取組が、多くのかかわりを得て、たくさんの方が笑顔になることができました。

地域に様々な機関があることは知っていましたが、こうして連携がとれると、ますます地域とのつながりを実感できます。今後も発信していきたいと思ひます。



4年生の総合的な学習でJAと連携して食農教育を推進

○学校と地域の協働

〈「豊浦小おやじの会」「長府中おたすけ隊」による地域貢献〉

(時に小・中学生も巻き込んで)

*長府レトロ祭り



*長府商店街土曜夜市



*地域清掃



〈ボランティア有志から「ほっちゃ倶楽部」が結成〉 (地域の文化振興を)

*長府音楽祭



「長府音楽祭」
長府地区の小中高6校およびプロの音楽家による合同音楽祭(司会も高校生)

*ほたとると胡弓の調べ(功山寺)



～心豊かな子ども達のために～
文化にふれる機会を地域から発信したいという思いにあふれて

*夏休み歴史教室



「ほっちゃ倶楽部」が博物館と連携して夏休みに歴史教室を開催

○ほっちゃ広場 (放課後子ども支援)

毎週金曜日 15:00～16:30

学校支援の流れから、放課後、校内においても地域の方と子どもたちがふれあえる活動にも取り組むことになりました。それが「ほっちゃ広場」です。ここでは、「子どもたちが主体的に学ぶ」ことと、子ども同士・ボランティア同士・子どもとボランティアなどが「互いに交流する」ことをめざします。

支援者は地域版「ほっちゃ通信」で募り、子どもたちとのふれあいを楽しみにしている地域の方が集まる場となっています。安全管理員も含めて全て無償ボランティアで進めています。

主体的な学びを大切にしたいと考えてはいても、子どもたちの中には戸惑う子、バランスをとれない子など様々です。主体的な活動と活動内容の充実をどのように保証していけばよいか、進めていく上での大きな課題となりました。ボランティアとも相談し、全体で取り組むメニューを適宜取り入れることにしました。実現したのは「七夕祭り」「クリスマス会」などです。みんなで取り組む良さを実感しましたが、毎回こうした準備ができないことも事実です。どのような加減が良いのか、ボランティアの方も巻き込んで、自分たちにあったバランスを見つけていくことができればよいと考えています。

毎回参加する児童も50名を超え、すてきな笑顔で子どもたちと地域のみなさんがふれあっています。ニーズがあることが分かりましたので、今後もボランティアのみなさんと知恵を出し合いながら、活動を進めていきたいと思っています。



〇かかわったみなさんの感想とそれを支える仕組み

◇ボランティアさんの感想

- 学校へ行くことで気持ちに張りができ、子ども達と接することで元気がもたらえた。
- 地域の思いを子ども達に伝えることができた。
- 新しいボランティア仲間ができた。
- 学校の先生方が温かいので、活動するとき嬉しい気持ちになる。
- 学校支援活動の情報が保護者や教職員に理解されていることが学校支援活動の定着と広がり不可欠である。



◇教職員の感想

- 対応が早く、気軽に頼めるので、とてもありがたかった。
- 幅広い人材の紹介により、児童生徒の活動が広がった。
- 「ほっちゃーず」の支援を子どもたちが楽しみにしている。
- 支援をお願いできると分かっているだけでも安心感がある。
- 地域との連携が絵に描いた餅ではないことに誇りを感じる。
- 本事業は、学校と地域を結びつける貢献度が大きい。



着任教職員に事業説明し、円滑な実施に備える

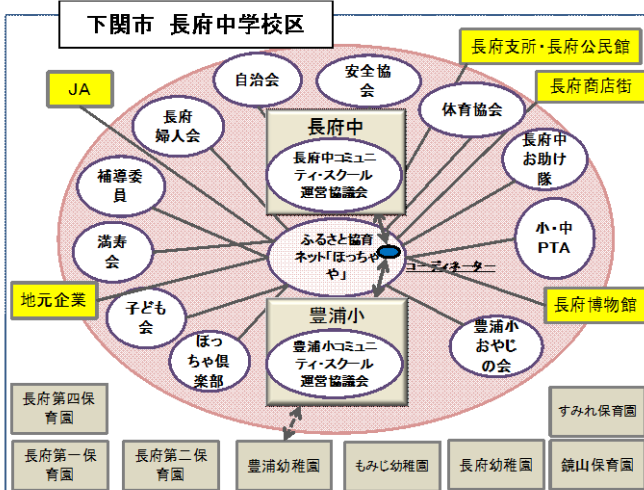
◇学校支援ボランティア活動の実施に関する準備及び運営

- ボランティア活動の依頼
- 打合せ時間の確保
- 活動終了後のミニ協議会の実施
- 活動終了後のボランティアへの礼状の発送



打合せの様子

今後の予定



これまでの取組で、学校では特色ある教育活動が展開でき、地域住民の学校教育に対する理解も得られるようになりました。また、地域においても学校との協働実践がなされ、新たなボランティアグループが立ち上がるなど地域活動が活発になりました。

今後、現在の活動体制を維持・発展させ、活動内容を更に深化・充実させていきたいと思ひます。そのためには、活動資金を補助金に頼るだけではなく、NPO法人化など持続可能なシステムに移行していくようにしていきたいと思ひます。

コーディネーターさんにインタビュー

Q：コーディネーターをするようになったきっかけは何ですか？

A：校長先生から依頼がありました。以前PTAの役員をしていましたので、少しでも学校のためにお役に立てばと思ひ、引き受けました。

Q：コーディネーターをしていて、一番うれしいことは何ですか？

A：「ほっちゃーず」のみなさんが、支援活動の後、皆笑顔で帰っていくことです。